

Rikkyo Service Learning Guide 2020

立教サービスラーニング(RSL)



RSLへようこそ!

RSLは、ボランティア等の経験者にはそこでの活動で得た知識や経験を体系的に捉え直す好機に、そうした経験のないみなさんには社会問題のリアルな一端に触れる機会になるはずです。また、RSLで学んだ経験は、今後の人生で岐路に立たされたときにこそ活かされるかもしれません。ぜひ、RSL科目を受講し、大学生活を実りあるものにしてください。

RSLセンター長 逸見敏郎

2020年度 全学共通科目 RSL科目一覧

(2015年度以前の入学者は扱いが異なるため、「履修要項」「R-Guide」で各自の入学年度のページを参照してください。)

1. RSL講義系科目 (曜日・時限はシラバス参照)

学期	キャンパス	科目名	担当者	単位数	履修対象年次	備考
春学期	池袋	大学生の学び・社会で学ぶこと	箕浦 真生	2	1年次以上	1年次推奨
	新座		中川 英樹			
秋学期	池袋	大学生の学び・社会で学ぶこと	藤井 満里子			
	新座	シティズンシップを考える	小玉 重夫			
	池袋	市民活動の組織とマネジメント	林 大介			
		デモクラシーとリベラルアーツ	原田 晃樹			
			藤井 満里子			

2. RSLゼミナール (曜日・時限はシラバス参照)

学期	キャンパス	科目名	担当者	単位数	履修対象年次	備考
秋学期	池袋	RSLゼミナール	藤井 満里子	2	1年次以上	※履修定員：30名 3、4年次を推奨

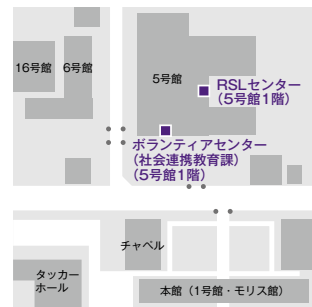
3. RSL実践系科目 (曜日・時限はシラバス参照)

学期	キャンパス	科目名	担当者	単位数	履修対象年次	備考
春学期	池袋	RSL-プロジェクト・プランニング	藤井 満里子	2	2年次以上	※履修定員：50名 ※事前・事後学習は水曜・5限に設定 ※フィールドワークは夏季休業期間に実施
秋学期	池袋	RSL-コミュニティ (池袋)	後藤 隆基		2年次以上	※履修定員：20名 ※事前・事後学習は金曜・3限に設定 ※フィールドワークは10月～12月に実施
		RSL-コミュニティ (埼玉)	田中 聡一郎		2年次以上	※履修定員：15名 ※事前・事後学習は金曜・5限に設定 ※フィールドワークは10月～12月に実施
		RSL-ローカル (南魚沼)	高野 孝子		1年次以上	※履修定員：15名 ※フィールドワークは2021年2月に実施
		RSL-グローバル (SDGs)	村上 清		1年次以上	※履修定員：10名 ※履修登録は4月下旬～5月上旬 ※事前学習は5月、6月、事後学習は9月 ※フィールドワークは夏季休業期間に実施 ※2020年度新規開講科目
		RSL-グローバル (フィリピン)	藤井 満里子		1年次以上	※履修定員：15名 ※事前・事後学習は木曜 (18:00～19:40) に設定 ※フィールドワークは2021年2月に実施

立教サービスラーニング(RSL)センター

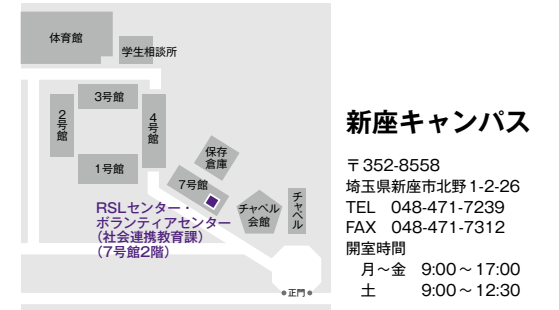
池袋キャンパス

〒171-8501
東京都豊島区西池袋3-34-1
TEL 03-3985-3819
FAX 03-3985-2850
開室時間
月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:30



新座キャンパス

〒352-8558
埼玉県新座市北野1-2-26
TEL 048-471-7239
FAX 048-471-7312
開室時間
月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:30



メールアドレス：rsl@rikkyo.ac.jp
ホームページURL：https://spirit.rikkyo.ac.jp/rsl/



【最新情報はこちら】
Twitter：@rikkyo_rsl



立教大学



立教大学

あなたにとっての
「当たり前」って本当ですか？

一緒にフィールドに
飛び出そう!!

未来につながる
「出会い」がある



立教サービスラーニング (RSL) って？

大学の学びとは？

大学の学びは「答えのない問いについて考えること」であるといわれます。そのためには、深めたいテーマとの出会いを自分から積極的に探す姿勢が大切です。立教サービスラーニング (RSL) センターは、人によって意見が異なる社会的課題について、学生が現場で体験し、その事柄を専門的に学び合う環境を提供します！

RIKKYO Learning Style (「専門性に立つ教養人の育成」)

立教大学は、4年間の学生生活 (学士課程) を授業だけではなく、サークルやボランティアなど、様々な活動と体系づけて考えています。そのため、学生生活を3つの期間 (導入期・形成期・完成期) に分け、各学部で専門性を究めるだけでなく、4年間のあらゆる学びの蓄積が個々の将来の目標に通じるよう、豊かな学びのスタイルを提供します。

立教サービスラーニング (RSL) の定義

社会の現場での活動と、教室における学問的な教育との結合を目指す実践型の教育プログラムの一形態であり、正課科目として展開。さまざまな分野で現場の専門機関の指導の下、学生たちは一定期間の社会的活動等を行い、その実践と理論的学習を統合することで、単位が付与される。

RIKKYO Learning Style の〈導入期・形成期・完成期〉に合わせて、講義系・実践系それぞれの科目 (全学共通科目) が用意されています。

※各期の学年以外でも履修することは可能です。
詳しくはシラバスを確認する、またはRSLセンターまでお問い合わせください。

① 導入期 (1年次)

RSL 講義系

全学共通科目：学びの精神科目群

大学生の学び・社会で学ぶこと

初年次教育や自校教育の要素を盛り込んでいます。1年次におすすめの科目です！

② 形成期 (1年次秋学期～2年次)

RSL 講義系

全学共通科目：多彩な学び (社会への視点) 科目群

- シティズンシップを考える
- 市民活動の組織とマネジメント
- デモクラシーとリベラルアーツ

講義系はキャンパスで議論し、深める！

③ 完成期 (3年次～4年次)

RSL ゼミナール

全学共通科目：多彩な学び (社会への視点) 科目群

RSL ゼミナール

大学での学びの総まとめとして、学際的なテーマを扱う、3～4年次におすすめの科目です！

立教サービスラーニング (RSL) センター ミッション・ステートメント

立教サービスラーニング (RSL) センターは、その使命の実現に向けて、以下を目的とした教育を実践します。

- 受講生は、立教大学で学ぶ学生のひとりとして、そしてデモクラシーを担うひとりの市民として、社会の中で状況や立場に応じて多様な役割を果たすという意識と態度を形成します。
- 受講生は、地域社会に生活する人々に寄り添い、共に活動することを通じて、その地域が大切にしてきた価値や文化を知り、その地域社会の未来について共に考えます。
- これらのために、自らの思考や行動を組み立てる上で必要となる知識と技法をサービスラーニングのアプローチから身につけます。

実践系はフィールド (現場) から問う！

立教サービ斯拉ーニング(RSL) 講義系科目

講義をもとにグループディスカッションや全体発表、そして実際にフィールドで活動している方からのお話（市民生活の課題とその取り組みの報告）など、「座学」だけでは終わらない講義系科目群です。

「大学生の学び・社会で学ぶこと」

立教大学だからできる「学び」と社会との「つながり」がある

立教大学の「共に生きる」という精神は大学4年間の学びのカリキュラムと深く関わっています。授業の前半では、チャプレンや大学職員が立教大学の歴史やその精神、立教大学における学びの仕組みとその構造、ボランティアなどの正課外教育活動等についてをお話します。後半では、科目担当教員の専門領域の知見を通して、大学で「学ぶこと」と「社会とつながること」の意味について参加者全体で考えていきます。



「市民活動の組織とマネジメント」

市民活動団体（NPO）が展開する公的サービスの役割と構造に迫る

左の写真は「今、地球にとって大切なことを伝えていく作品」づくりをテーマに「砂浜美術館」を運営している特定非営利活動法人NPO 砂浜美術館の活動についてお話を聴いている様子です。この授業では、活動の最前線にいる方をゲストとしてお呼びしながら、日本の「市民」が現場にある課題を解決するため、事業を展開するようになったプロセスや運営上の特徴などを学びます。



「シティズンシップを考える」

「市民」(citizen)としての「合意」と「選択」の本質とは？

日本は2016年に「18歳選挙権」が導入されました。これは新たに18歳～19歳も、地方自治や国政に参画する責任と義務が生じたということです。また、私たちに「子ども」と「大人」の境界線や「市民」の意味について再び問い直す機会が与えられたということでもあります。この授業では、受講生同士のグループディスカッションと発表、模擬選挙の実施や高大連携授業等を通して、「市民」と「主権者」の意味に迫ります。



「デモクラシーとリベラルアーツ」

芸術は社会を映す鏡。芸術から社会の諸相、考えてみませんか？

人間の心性に深く関わる身近な文化芸術に触れ、デモクラシーやリベラルアーツの普遍性と重要性を学び、社会認識を深めることを目指します。文化芸術の具体的な事例を基に、社会と人間との関わりや自分らしい社会の捉え方について、受講生同士でディスカッションします。



「RSLゼミナール」

身の回りの生活文化を見直して、社会との関わり方を考えよう！

日常生活において見逃されがちな生活文化に光を当て、そうした文化の有効性を社会にどのように追求していくのかを受講生自身が考えます。文化の現場の最先端で働くゲストスピーカーの話や映像、実際のものづくり体験、受講生同士のディスカッションやそれぞれのプロジェクトの構築等を通して、文化や社会とどのように関わることができるのかを実践的に学びます。



立教サービスラーニング(RSL) 実践系科目

立教大学の10学部27学科1Programに在籍する全ての学生が共に語り、学びあうことができる「フィールド」がここにはある。単なる履修では終わらない社会とのつながりに積極的にチャレンジしよう！

「RSL-コミュニティ(池袋)」

多文化共生の視点から池袋地域における相互連帯のあり方を考える

「池袋」について、どのようなイメージを持っていますか？
昨年、豊島区は日中韓で展開された「東アジア文化都市2019」の国内交流都市に選ばれるなど、池袋を中心にまちづくりも大きな国際化の流れの中にあります。また、2018年に池袋キャンパスは100周年という節目を迎え、地元との関係づくりに新たな1頁を記しました。
この科目では、外国籍住民も増え続けているなど急速にグローバル化を伴う変貌をとげている池袋地域をフィールドとして、「多文化共生と相互連帯」というテーマに取り組みます。池袋を主なフィールドに、多様な文化的背景を持つ住民の生活課題を「歴史・記憶」「次世代・子育て」「芸術文化」の3領域から見える化し、住民との協働を通じて改善を図るための方法論を主体的かつ具体的に計画しながら、相互連帯の仕組みにつながるアプローチを考えていきます。
また、「池袋キャンパス」という存在が、地域社会の中で果たしうる役割についても現場での活動を通して皆さんと考えてみたいと思います。



「RSL-コミュニティ(埼玉)」

みえない「貧困」の意味を問う

厚生労働省によると、日本で貧困状態にある子どもの割合は7人に1人とされています。GDPで世界第3位の日本は、今なお経済的には豊かな国のはずなのに、なぜこれほど貧困に苦しむ子どもがいるのでしょうか。特に相対的貧困として語られる日本の社会状況では、子どもの貧困は可視化することが難しく、さまざまな事情から学びたいのに学べない、学ぶ意欲が持てない子どもたちが社会から置き去りにされている現実があります。
この授業では、サービスラーニングの手法に基づきながら、埼玉県内の各地で生活困窮世帯の中学生を中心に「学習支援」と「家庭訪問」活動を展開している団体の事業に参加します。教室に参加する中学生への学習サポートを通して、日本の社会保障制度の中心的な政策の一つである生活保護制度の運用実態に触れるとともに、みえづらくなった貧困と格差、社会的包摂を巡る諸問題についての理解を深めます。



立教サービスラーニング(RSL) 実践系科目

RSL実践系科目には、「コミュニティ(大学近郊)」、「ローカル(国内遠隔地)」、「グローバル(海外)」、そしてこれら全てのフィールドを一つにまとめた「プロジェクト・プランニング」があります。自分の立っている場所から水の波紋のように学びを広げてみたり、広げた場所から自分の立っている位置を問い直すことができるような連環型の学び(フィールド)を提供しています!

「RSL-ローカル(南魚沼)」

農村地域での交流から考える自然との共生と持続可能なまちづくり

新潟県南魚沼市栃窪集落は、世界のなかでも最豪雪地帯の一つであるといわれています。その雪深さゆえ、地元では家屋等に積もった大量の雪の除雪作業を「雪かき」ではなく、「雪ほり」と呼んでいます。真冬の生活は厳しいものではありませんが、南魚沼地域はその「場」にしかない四季折々に変わる豊かな自然の表情と食の恵みを私たちに与えてくれています。一方で現代日本の社会的な課題の一つである過疎・高齢化の問題に栃窪集落も直面しています。

この授業では、真冬の栃窪集落を活動のフィールドとし、現地での「雪ほり」活動や地域住民の方たちとの交流を通して栃窪集落の生活文化等を学びます。農村地域での生活体験を通して、過疎・高齢化地域の現実や「豊かさ」の意味と向き合い、地域に住む方たちと共に地域活性や自然との共生のあり方等について考えます。



「RSL-グローバル(SDGs)」

新規開講!!

ローカルとグローバル、双方の視点から「社会的課題」をみつめ、自身のキャリアを考える

この授業では「持続可能な開発目標(SDGs)」に代表されるように、私たちの身の周りの問題が、世界各地に共通する課題でもあることを理解し、ローカルとグローバル双方の視点を持った思考を養うことを目指しています。あわせて将来のキャリアとして、国際機関で働くことを考える機会にします。

フィールドはローカルを「岩手県陸前高田市」、グローバルを「ニューヨーク国連本部」とし、この2か所で活動します。陸前高田市では市が取り組んでいる「震災復興」と「SDGs未来都市」事業を現地調査や第一次産業の体験活動等を通じて学びます。

ニューヨークの国連本部では、国際機関に勤務する国際公務員や外交官からの講義、意見交換等を通じて、21世紀の世界が抱える諸問題を理解し、その解決方法を検証します。

※この科目は2020年度グローバル奨学金対象科目です。(予定)
奨学金の詳細は2020年4月以降、学生部奨学金HPに掲載します。



立教サービスラーニング(RSL) 実践系科目

「RSL-グローバル(フィリピン)」

アジア地域の大学連携によるフィールドプログラムで国際的な課題と向き合う

立教大学がもつ独自のグローバルネットワークであるCUAC(世界聖公会大学連合会)と連携し、フィリピンのケソン市にあるトリニティ大学が展開するサービスラーニングプログラムに参加します。活動するマニラ近郊のコミュニティでは、社会格差が深刻化しており、目に見える貧困とどのように向き合うかが社会的な課題となっています。トリニティ大学では、地域の人に「寄り添う」ことを中心に「教育」や「医療」等における支援活動を展開しており、この活動に日本国内の聖公会関係大学や韓国、フィリピン等の大学生がチームとなって一緒に向き合い、地域に寄り添う具体的な手法について国際的な視点で検討します。

※この科目は2020年度グローバル奨学金対象科目です。(予定)奨学金の詳細は2020年4月以降、学生部奨学金HPに掲載します。



「RSL-プロジェクト・プランニング」

フィールドの多様性と向き合い、自ら社会の課題を考える

この授業では、学生が社会の様々な状況のなかで生きている人々と活動を共にすることを通して、いのちのあり方や生き方を学ぶとともに、学生自身も社会をつくる一員であることを改めて自覚し、大学生としてすべきこと、これから先の人生の中でできることは何かについて、深く考えることを目的としています。参加学生は国内・国外の13の活動先から自分が参加したい活動先の一つを選び、そこでの活動と他の活動を比較しながら、現代社会が抱える諸課題と向き合うことになります。そして、この授業を通して、シティズンシップ(市民性)、すなわち責任ある市民としての意義、感受性、行動力を養い、将来のキャリア形成を考える一助とすることを目標とします。



「RSL-プロジェクト・プランニング」活動先一覧

協同組合系フィールド

国内 **宿泊なし** 一般社団法人 暮らしサポート・ウィズ (東京・新宿区)

「相談」という社会のセンサー機能を体感する

テーマを区切らず「暮らしの相談」を受けています。相談は社会のセンサー機能ともいわれ、社会問題がいち早く表出します。「ウィズ」を含む4団体と協働した活動に参加し、社会問題の解決にむけた実践を体験します。

国内 **宿泊なし** 一般社団法人 ワークス・コレクティブ ぶろぼの工房 (東京・国分寺市)

「市民参加のまちづくり」をコーディネート

協同経営で仕事をする協同組合型の運営をしています。「働くことは生きること」を実感しながら自分自身が輝き、持続可能で元気な地域社会づくりの一翼を担うことを目指しています。まちづくり等の実態調査や居場所づくり等、まちづくりにまつわる仕事の一端に関わります。

国内 **宿泊なし** NPO法人 ワークス・コレクティブ 青いそら (埼玉・三郷市)

年齢やハンディをこえてともに働く

地域の人々が気軽に集い、食事やお茶をゆっくり楽しみ、市民の交流が生まれる場。また、しょうがい者を含めたメンバーで助け合いながら働く場としてコミュニティレストラン等を運営しています。一般企業が行うサービス提供との違い、そのことが地域に果たす役割を考えます。

国内 **宿泊なし** ワークスコープ連合会センター事業団 (東京・豊島区)

「協同労働」で自分らしく働く

「ともに生き、ともに働く」社会をつくる『協同労働』を実践しています。実習では、組合員と一緒にしょうがい者施設や児童館・学童クラブ、高齢者の複合施設で活動をし、世代間交流や地域コミュニティ拠点の必要性等と向き合いながら「働く」ということの意味と向き合います。

国内 **宿泊なし** 東京ボランティア・市民活動センター (東京・新宿区)

多様な市民活動の推進と支援の実態を学ぶ

東京エリアを中心に、さまざまな団体・機関とのネットワークをはかり、社会福祉やボランティア活動の推進等によって質の高い「市民社会」の実現を目指しています。会議や企画の準備等に参加するなかで、一人ひとりを大切にするとどのようなことかといった、「広義の福祉」について考えます。

国内 **宿泊なし** NPO法人 NPO birth (東京・都内各所)

身近な自然と人間の共生に取り組む

植物の名前いくつか言えますか？

自然と人間との共生を身近な緑の保全を通して実現することを目指しています。対象とする緑は、暮らしの中にある公園や雑木林、農園、街路樹等。「人と自然をつなぐ」、「人と人をつなぐ」、「人と社会をつなぐ」をテーマにこれらの緑をそこに暮らす人々と共に守り育てていく活動に参加します。

国内 **宿泊なし** NPO法人 サポートハウス年輪 (東京・西東京市)

いつまでも住み続けられる「地域」のかたちを考える

地域でいつまでも暮らしつづけるための仕組み作り挑戦し、食事サービスやカフェ「絆」他、各種イベント事業などを実施しています。介護という仕事の社会的役割と現状を知るとともに、地域とつながるかたちを模索します。また、介護職の現状から「人」を大切にすることを考えます。

国内 **宿泊なし** 認定NPO法人 多文化共生センター 東京 (東京・荒川区)

「日本で生きる」を支援する

外国にルーツを持つ子どもたちは、日本で生活するにあたり様々な困難を抱えています。多文化共生センター東京では、「たぶんかフリースクール」をはじめ、日本語の学習支援や親子に対する教育情報の提供、多文化共生社会への理解を深める広報活動等を実施しています。外国にルーツを持つ人々と日本で共に生きるために必要なことは何かを考えます。

国内 **宿泊あり** NPO法人 グリーンウッド自然体験教育センター (長野・泰阜村)

「教育」プログラムを通じたむらづくりの可能性とは

新規フィールド!!

人口1600人の長野県泰阜村は、「教育」をむらづくりの総合戦略の中心に置くことで、UIターンが増え、出生数が増加するなどの成果が出ています。同村における「教育」事業を担っているNPO団体の「信州子ども山賊キャンプ」事業の運営に携わりながら「小さな村の地域創生」のあり方や住民と協働した政策策定の可能性等考えます。

国内 **宿泊あり** 学校法人 アジア学院 (栃木・那須塩原市)

「共に生きるために」をモットーにしたサーバントリーダーシップとは

新規フィールド!!

アジア学院はアジア・アフリカの農村リーダーが、自国のコミュニティでより良い開発を行うためのリーダーシップを学ぶ学校です。また英語を共通語として有機農業をしながら自給自足の生活を行っているコミュニティでもあります。

活動では、各国の農村リーダーと実際に交流しながらアジア学院の教育プログラムに参加し、「共に生きる」ということの意味と向き合います。

国内 **宿泊なし** NPO法人 キッズドア (東京・都内各所)

子どもの貧困問題と向き合う

キッズドアは「親の収入格差が子どもの教育格差であってはならない」という使命のもと、行政、企業、地域とつながって、都内を中心に子どもの学習支援等を展開しているNPO法人です。

学習支援に留まらない視点を軸とした、キッズドアが展開する多様な課題解決への取り組みに参加することで、「子どもの貧困」問題の現状と向き合います。

国内 **宿泊あり** 一般社団法人 まるオフィス (宮城・気仙沼市)

気仙沼地域の課題や現状と向き合う

東日本大震災を機に気仙沼に移住した若者と地元若者が一緒になって「地域協育」と「移住推進」、「若者支援」の3事業を展開するまちづくり団体です。人口6000人の小さな漁村で、地元住民と協働で進める「地域の仕掛人(ローカルマネージャー)」の活動に参加します。

国外 **宿泊あり** 日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo) (インドネシア ジョグジャカルタ)

インドネシアの文化・宗教に触れながら社会課題と向き合う

!!ニューアレル!!

インドネシアのジョグジャカルタで、インドネシアの文化や宗教、環境問題等について様々な施設や現場を訪問しながら、インドネシアの特徴の一つである「多様性」について学びます。また、インドネシアの社会課題の一つであるしょうがい者に対する差別や偏見とも向き合い、国際的な視点を養い課題を乗り越えるためのアプローチ方法の獲得を目指します。

※2020年度グローバル奨学金対象科目(予定)

経済学部
経済学科
加藤 玄大さん



観光学部
交流文化学科
角張 佑芽さん



法学部
政治学科
中川 愛美さん



社会学部
社会学科
藤生 百香さん



コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科
杉山 賢汰さん



理学部
生命理学科
藤田 寛明さん



RSLの学び 「社会の現場」でみえたこと

文学部
教育学科
野川 真由さん



経営学部
経営学科
川畑 陽菜乃さん



コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科
北嶋 日菜子さん



「多様性」の盲点
～見ようとしないと多様性は見えない～

コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科
青木 悠弥さん



社会学部
現代文化学科
池中 彩乃さん



コミュニティ福祉学部
コミュニティ政策学科
齋藤 優太さん

RSL—その後の学び

立教サービラーニング（RSL）センターは、本学のボランティアセンターと協力・連携することで、RSL科目を履修した後の学生の学びや活動を支援しています。今回は実際にRSL科目を履修した後、自分達関わったフィールドで継続的な活動を展開した学生のコメントをご紹介します。立教大学だからできる学びの連環をぜひ、皆さんも体感してみてください！

実際に自らが行動することの大切さ

1年生の秋に実践系科目の一つである「RSL-ローカル（南魚沼）」を履修し、現地活動を通して、「豊かさとは何か」、「持続可能な社会にするにはどうすべきか」等を学び考える機会を得ました。その後、現地でお世話になった方々に恩返しを

したいと思い、有志メンバーと話し合っ「立教×栃窪プロジェクト」を企画しました。本プロジェクトでは、お世話になった地域のPRを目的とした大学のホームカミングデーでのお米販売と、立教生に南魚沼の豊かな自然と暮らしを体感してもらうことを目的とした現地体験プログラムといった、二つの活動に取り組みました。

本プロジェクトを通し、実際に自らが行動することの大切さを知ることができました。そして、行動することで新たに学ぶことや見えてくるものがあることも感じる事ができました。立教大学のRSLは、参加者のその後の生活や活動に大きな影響や刺激を与えてくれる科目であると思います！

「RSL-ローカル（南魚沼）」履修
法学部政治学科
和田 拓磨さん

本学ホームカミングデーでの「立教×栃窪プロジェクト」お米販売の様子（中央の男性が和田さん）



その奥にある思いや葛藤と向き合いたい

私は、大学生になってボランティアサークルに所属し、高齢者の方やしょうがい者の方に向けたボランティア活動に参加していましたが、もっといろいろな現場に参加したいという気持ちがあり、貧困家庭の子ども達に学習支援をするこの授業を履修しました。

活動中、「一緒に楽しい時間を過ごせば良い」と考えていましたが、活動前のミーティングで学習支援に通う子ども達の家庭の事情を知り、「周りからはわからない何か」を抱えている子どもが多いことを知りました。

私自身、ただ勉強を教えてくれる大学生の一人ではなく、いつも話を聞いてくれる〇〇さんのような、相手にとって意味のある存在になりたいと思います、今もボランティアの活動を継続しています。

今は将来子ども関係の心理職のお仕事をしたいと考えており、これからはいろいろなことにチャレンジしながら、学びを深めていきたいと思っています。

「RSL-コミュニティ（埼玉）」履修
現代心理学部心理学科
梶場 日菜子さん



学習支援活動前のミーティングの様子（中央の女性が梶場さん）

RSL科目の履修についてよくある質問

Q1. RSLセンター科目の履修は、「導入期」・「形成期」・「完成期」の順番で履修しないとダメですか？

A. 各学修期はあくまでも目安です。講義系・実践系科目を問わず、どの科目も履修したい時期（学年）に履修していただいて問題ありません。

Q2. RSL科目の履修について注意することはありますか？

A. RSL科目は履修のための事前説明会を実施しています。特に、実践系科目の履修を希望する学生は出席してください。また、これらの科目は、「事前学習→学外活動（フィールドワーク）→事後学習」全ての出席が必須となります。詳細については「シラバス」や「履修要項」をご確認していただくか、説明会にお越しください。

Q3. 実践系科目はどのように履修登録すればよいですか？

A. 「RSL-グローバル（SDGs）」を除き、全て抽選登録科目（Web）です。特に「RSL-コミュニティ（埼玉）」を除く実践系の科目は、時間割表ではなく、「集中・その他・オンデマンド」の「追加」をクリックし、画面の指示に従って履修登録をしてください。「RSL-グローバル（SDGs）」はその他登録ですので、シラバスを確認してください。

※その他、ご質問・ご不明な点等がありましたら、RSLセンターにご連絡ください。

RSLセンター運営協議会委員・スタッフ一覧

逸見 敏郎	センター長 文学部教授	藤井 満里子	RSLセンター助教
原田 晃樹	副センター長 コミュニティ福祉学部教授	福原 充	RSLセンター教育研究コーディネーター
箕浦 真生	運営協議会委員 理学部教授	大森 真穂	RSLセンター教育研究コーディネーター
神橋 一彦	運営協議会委員 法学部教授	佐藤 一宏	社会連携教育課課長
塚本 伸一	運営協議会委員 現代心理学部教授	松村 郷士	社会連携教育課
飯島 寛之	運営協議会委員 経済学部准教授 (全学共通カリキュラム運営センター副部長)		

「R」(立教)を乗せたSL(steam locomotive)で
未知の世界を旅しよう!

レールの先は
アナタシダイ

